

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p><b>【スクールミッション】（社会的役割）</b> 国際教育や実践的・体験的な教育を推進する普通科を設置する高校として、地域の関係機関と連携した授業や探究活動を通して、確かな学力を身に付け、持続可能な地域社会づくりを担う人材を育成する。</p> <p><b>【スクールポリシー】（三つの方針）</b> 1 育成を目指す資質能力に関する方針（このような力を育てます） 「人とつながり、挑戦で育ち、未来へ歩む」 ・コミュニケーション力を高め、他者と信頼関係を築く力を育成する。 ・失敗を学びに変え、粘り強く取り組む姿勢を育成する。 ・地域や社会とのリアルな関わりの中で、自らの未来を切りひらく力を育成する。</p> <p>2 教育課程の編成及び実施に関する方針（このような教育活動を行います） 「自分らしく学び、未来へ夢をつなぐ」 ・地域と社会のつながりを大切にしつつ、グローバルな感性を育む。 ・探究活動を中心に自ら課題を見つけ、考え、主体的に行動できる力を育む。 ・キャリア教育を通じて、自分の進路を自分で切りひらく力を育む。 ・部活動や学校行事等の多様な体験を通して、自分だけの“+α”を磨く。</p> <p>3 入学者の受入れに関する方針（このような生徒を待っています） 「意志や意欲は成長の原動力」 ・自分の強みを活かして、自分のため、周囲の人々のために頑張れる生徒。 ・高校でも更に学力や人間力を高めたい生徒。 ・多様な人々の考えを大切に、良い人間関係を築こうとする生徒。</p>	<p><b>【成果】</b> ○学習用端末を有効活用し、学習の個別最適化を図るとともに主体性のある学習活動を展開することができた。 ○進学指導では、生徒の実態を把握し、個々の進路目標に即した指導を行うことで成果（国公立大学2名・公立短大1名、関関同立1名、産近佛龍4名合格）をあげることができた。また就職指導では、3年生を対象にインターシップの実施、1・2年生対象には地域企業と連携した体験型のガイダンスを実施し、職業を知る機会を提供することで主体的にキャリアを形成していく力の基礎を養うことができた。（公務員7名合格、就職内定100%達成） ○総合的な探究の時間においては、令和7年度より新しい取り組みを導入し、全生徒・全職員が一体となった活動を実施。1年生（マイガクⅠ）では、探究活動の基礎づくり、2年生（マイガクⅡ）では課題発見と考察、3年生（マイガクⅢ）では、行政や地域企業等と連携した取組を本格化し、多様な視点で課題に自ら向き合い、論理的思考や協働的な活動をもとに、自分たちの解決方法を地域・社会に発信できた。 ○学校設定科目では、地域との連携に留まらず積極的に京都府や舞鶴市、外部団体と連携した取組を行うことで特色ある教育活動を発信することができた。 ○教育相談会議が軸となり、新たな支援体制の枠組みを構築することができ、次年度からの本格実施に向け学校全体での組織化を図れた。 ○生徒会活動や部活動では、生徒が主体的に取り組む姿勢が多く見られた。ボート部、書道部の全国大会への出場、生徒会や書道部の取組による舞鶴ユネスコ協会や舞鶴警察署から感謝状を拝受した。</p> <p><b>【課題】</b> ○学習意欲の向上と学習習慣の定着を図るため、学習ツールの精選と有効活用を図る。 ○進学状況を再確認し、1年生からの計画的で粘り強い指導を学校の風土として定着させる必要がある。 ○ICTの活用については、業務改善、授業効率化などにとどまらず、生成AIやSNSなどを含め、実社会でも有効活用するための資質向上が求められる。 ○生徒自身が企画運営する（チャレンジする）取組を更に奨励する必要がある。 ○組織化した支援体制・指導体制を十分に機能させるための職員間の理解と協働が必要である。 ○探究活動（マイガク）や学校設定科目において、生徒自身が自己有用感や将来への展望を明確にできるようにすることを目指す。 ○学校に対する地域の理解を得るために、諸活動を積極的に発信するとともに、その方法について検討改善を目指す。</p>	<p><b>【重点1】</b> 生徒が主体的に学習し、進路を選択・実現する力を育成する (1)学習習慣の定着と学力向上のための、学習者目線を大切にした授業改善の実施及び補助教材の有効活用 (2)探究的な学びの充実及び実社会と結びつけたキャリア教育の充実</p> <p><b>【重点2】</b> 教育DXを推進する (1)ICTを活用した学校運営の改善及び働き方の改革 (2)ICT技術・生成AI等を有効活用するための教職員・生徒の資質向上</p> <p><b>【重点3】</b> 学校の強みを磨き、積極的・効果的にそれを発信する (1)地域の関係機関・団体・個人との協働による一歩踏み込んだ地域創生活動の実施 (2)創造的活動や表現活動の機会を創出し、生徒・教職員が一体となった活動成果の計画的発信</p> <p><b>【重点4】</b> 積極的な特別支援教育及び生徒指導・教育相談を推進する (1)配慮を要する生徒への個別指導・支援の組織的体制づくり及び定着化 (2)生徒の主体性を育てる取組（部活動・学校行事等）の充実</p>

令和8年度 京都府立東舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
重点1 生徒が主体的に学習し、進路を選択・実現する力を育成する	(1)学習習慣の定着と学力向上のための、学習者目線を大切にした授業改善の実施及び補助教材の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎・基本の徹底 小テスト・復習・個別支援・習熟度別指導で学力の土台を固めるとともに、検定や模試を有効活用する。</li> <li>●主体的に学ぶ授業 目標提示と振り返り、実習中心の授業、ワークシート工夫で主体性を育成。</li> <li>●ICT活用 ELSA・キャリアナビ・FINE SYSTEMで学習の効率化と分析を強化。</li> <li>●進路意識の早期育成 1年次からの進路学習、補講、個別支援で進路実現を支える。</li> <li>●学校全体での学習支援 10分スタディ、Core Project（放課後学習サポート）の推進・定着</li> </ul>		
	(2)探究的な学びの充実及び実社会と結びつけたキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●探究の体系化 興味関心に基づく探究活動を体系的に行い、自己理解・社会理解を深める。</li> <li>●ICT活用による個別最適化 キャリアナビ等で探究・キャリア学習を効率化し、個別最適な学びを実現する。</li> <li>●実社会との接続と地域貢献 行政・企業・大学・地域との連携を拡充し、実社会の課題を扱う体験的学習を充実させるとともに、連携先の要望にも応えながら地域に貢献する。</li> <li>●キャリア教育の強化 自己理解・職業理解を深め、探究成果を進路選択に結びつける体系的なキャリア教育を行う。</li> </ul>		
重点2 教育DXを推進する	(1)ICTを活用した学校運営の改善及び働き方の改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業のICT化 授業準備、課題管理、振り返りを効率化。</li> <li>●業務の自動化 生成AI等を有効活用し、採点や事務作業を自動化する。</li> <li>●教職員の協働強化 ICT研修で情報共有を円滑化し、ICT活用力を高める。</li> <li>●進路指導の効率化 キャリアナビ等を活用し、進路指導の質と効率を向上させる。</li> </ul>		
	(2)ICT技術・生成AI等を有効活用するための教職員・生徒の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ガイドラインとリテラシー育成 AI・ICTの安全な活用基準を整備し、情報モラルと活用力を高める。</li> <li>●教職員のICTスキル向上 ICT活用事例の共有や研修を通して、教員の実践力を強化する。</li> </ul>		

令和8年度 京都府立東舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
重点3 学校の強みを磨き、積極的・効果的にそれを発信する	(1)地域の関係機関・団体・個人との協働による一歩踏み込んだ地域創生活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域連携の強化 企業・行政・大学・地域人材と協働し、探究・キャリア教育を深化させる。</li> <li>●地域課題を扱う探究の推進 地域活性化や地域課題をテーマに、協働的な探究活動を展開する。</li> <li>●地域交流による社会性育成 地域行事・施設交流・ボランティアを通して、地域の一員としての自覚を育成する。</li> <li>●成果の発信と還元 活動成果を校外に発信し、学校の教育力向上と地域貢献につなげる。</li> </ul>		
	(2)創造的活動や表現活動の機会を創出し、生徒・教職員が一体となった活動成果の計画的発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒主体の広報 生徒会・委員会と教職員が連携し、学校の魅力を生徒主体で発信する。</li> <li>●成果発信の強化 学内外での生徒の取組や活動成果を展示・動画・SNS等で広く発信する。</li> </ul>		
重点4 積極的な特別支援教育及び生徒指導・教育相談を推進する	(1)配慮を要する生徒への個別指導・支援の組織的体制づくり及び定着化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支援チームによるサポートの体系化 Core Projectチームを中心に、全職員でのサポート体制を定着させる。</li> <li>●UDL（学びのユニバーサルデザイン）による学びやすい授業づくり 全ての生徒が学びやすい授業環境を整え、資料共有などで取り残しを防ぐ。</li> <li>●専門職・専門機関との連携強化 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、公的機関等との連携を強め、組織的な支援体制を構築する。</li> </ul>		
	(2)生徒の主体性を育てる取組（部活動・学校行事等）の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主体的に学ぶ力の育成 探究・振り返り・視覚教材などで、生徒が自ら学ぶ姿勢を育てる。</li> <li>●行事・部活動の生徒主導化 学校行事や部活動で企画・運営を生徒が担い、リーダーシップを育む。</li> <li>●協働性と自己有用感の向上 協働学習・ボランティア、発表活動等の機会を多く設け、達成感と社会的役割意識を高める。</li> </ul>		
学校関係者 評価委員会 による評価				
次年度に向けた 改善の方向性				